

T・Sコレクション

岡野岬石(浩二)展

1968年 東京芸術大学 油絵科 卒業

裸眼のリアリズム-物感-画家の畢竟地

真
善
美



油絵「鶴原風景」2017年

超
越

2023年4月1日(土)～4月28日(金)

会場:今井美術館 江津市桜江町川戸472-1 TEL.0855-92-1839

時間:10時～16時(会期中無休) 入場料:一般700円、18歳以下学生無料

主催:今井美術館

後援:島根県教育委員会・江津市教育委員会・山陰中央新報社
中国新聞社・TSKさんいん中央テレビ・日本海テレビ
BSS山陰放送・石見ケーブルビジョン・エフエム山陰





岡野 岬石(浩二) プロフィール

- 1946 岡山県玉野市に生まれる
- 1966 東京芸術大学学内賞(安宅賞)受賞
- 1968 東京芸術大学(小磯良平教室)卒業
卒業制作サロン・ド・プランタン賞受賞
- 1971 個展(日本橋画廊)
- 1972 東京芸術大学大学院修了
- 1975 第18回安井賞展「草浪」(25号)出品
- 1981 第24回安井賞展「風景」(100号)出品
- 1982 個展(月刊美術画廊)
- 1983 「風景との出会い展」出品(宮城県立美術館)
- 1992 第35回安井賞展「海浜1」(60号)出品
- 1993 個展(銀座資生堂ギャラリー)
- 1995 「洋画の展望－具象表現を中心に－展」出品(福井県立美術館)
- 1996 個展(池袋西部百貨店アート・フォーラム)
- 1998 アートギャラリーオオハシにて個展。この個展より、自分の絵画上のコンセプトとして「抽象印象主義」を標榜する。10代後半からの人生上のイズムだった実存主義から超越的実在論者になる。
- 1999 個展(銀座藤屋画廊)
- 2002 岡野浩二・李斗植二人展(ギャラリー美術世界)
フォーラム・アート・ショップにて個展。サブタイトルは「光と空間∞抽象印象主義」。リトグラフを作る過程で、光と絵具の関係を再認識した。
個展多数開催
- 2004 3冊目の作品集「岡野浩二作品集1993～2004」を刊行。
- 2005 前年に観たピカソ展とマチス展の彫刻からインスパイヤーされて、彫刻を作ろうという思いを実行に移す。
- 2006 「芸術の軸径」出版(アートヴィレッジ発行)
- 2007 昨年の暮れ頃より、人間の外界の認識と認識の内部構造を考える糸口をつかむ。そのヒントになったのは画家坂本繁二郎が晩年よく使っていた「物感」という言葉である。
- 2009 「芸術の哲学」出版(アートヴィレッジ発行)
- 2010 東伊豆の片瀬白田に仮アトリエとして借家を借りて、イーゼル絵画への取り組みを始める。
- 2012 東伊豆から富士山を描くために、御殿場に仮アトリエとして借家を移す。
- 2013 「芸術の哲学」の文章が日大の入試の問題に使用される。
11月、御殿場から山中湖村に仮アトリエとして借家を移す。
- 2014 「道元」関係の本を読みまくる。
- 2016 第1回「イーゼル画会」展を開催。このグループ展は毎年開催で10年間続ける予定。
個展(今井美術館)
- 2018 「全元論」出版(静人舎)
- 2019 「瀬戸内百景」出版(静人舎)
- 現在 無所属



初期の具象風景から新たな展開として、抽象印象主義 (Abstract Impressionism) をコンセプトに、光と空間の在りようを通して世界を描写しようと試みを続けている。

「世界を光と空間に還元し、美に向かって全体化する」ことから生まれる作品は、幾何学的な明快さと色彩の美しさ、そこから放たれる光の空間性により、独自の世界を作り出し、高い評価を得ている。

